hanatorimura letter Vol.1

花鳥村通信

861-1441熊本県菊池市原4490（アンナプルナ農園）Tel:0968-27-0212 Fax:0968-27-0206

今年は春の地震とか、一息つく間もなく一気に秋が来てしまったような気がします。
みなさまはどんな秋をお過ごしですか？

10月半ばに、生命平和な東アジア地球市民会議と花鳥村祭という集いが花鳥村で開かれました。農園の上流の村に約200人以上の東アジアの人たちが集いました。私はマザーキッチンと名付けた台所でみなさんのご飯担当させていただきました。いろんな物語がありましたが、その中で印象的なエピソードを紹介させてください。

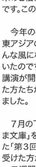
蜘ゆかな祭りのある夜、恥ずかしながらオトラビは過労で倒れてしまいました。私が食料倉庫で悶えなっていると、韓国から来られたチャングムのおばさを持つ薬膳の先生が微笑みながらも死線ぼ縫い指圧をしてくださり、かろうじて復活しました。時を同じくしてオトラもんも別の場所で倒れており、SOSの着信。一歩間違うと救急車を呼ばなくてはという状況だったのでした。真夜中、皆が吹き荒れる中でオモニの指圧と私の母の手当てオトラもんは窮地を脱しました。

翌朝、雨が上がり朝日が登る頃、オモニが湯気の上がった薬膳のお粥を持ってきてくださいました。ヌルンジという韓国では一般的なおこげを使った滋養のあるお粥です。量が過ぎて朝のお粥。お粥を一口口に入れた瞬間に、体中に溢れりが広がり、食べる事を忘れていたからか、美味しくて突然涙が溢れてきました。「誰かが作った料理って美味しいな。おいしくて涙が出て来る。」と言ながら食べました。隣で お粥をすするオトラもんはニコニコ笑っていました。そうやってオモニのお粥と指圧で復活した朝でありました。このように結局グランマーたちの存在に救われたマザーキッチンでした。"Be Mother"の道のりはまだ始まったばかり。

もうひとつ印象的だったこと。
韓国から混法上人という お坊さんが来られていました。道法上人は行脚をされて、百の祈りという五体倒地の祈りをされている方です。
その方の祈る姿も美しかったのですが、食事の配給を受けとる時の姿が心に残っています。食事時は村中の人々が行列になり次々に配るので、みんなの様子がよく見えます。小さな子らはジャガイモたくさん、ナスいらない、スープだけなど、好き嫌いが多かったり。大人の方とご お断りしても「もうちょっと」とおかわりを求める人がいたり、小さな駆け引きが繰り広げられる人の世の風景。
そんな中、行列に道法上人がススススっと現れて目前に来られます。道法上人は、一杯のおかずをお皿に入れた瞬間、風のように立ち去られました。その一瞬の姿にハッとしました。すでに涙が溢ぎるので、忘れてしまうくらい些細な瞬間なのだけど、また次の ご飯に来られた時も同じ姿で立ち去られました。
一杯の配給に対して、微塵も心を動かさないその姿。風のような軽い存在感。行雲流水とはこんな風なのかな？お話は聞く機会がなかったけれど、一瞬の姿が心に残る場面でした。
「花鳥村」、さぁさあこれからどんな物語が始まってゆくのでしょう。

農園は稲刈りも終わり、冷たい秋風が吹きはじめました。そろそろ冬支度です。鉄瓶でお湯を沸かし、こたつでお茶を飲みながら読書を楽しむ季節がやってきました。いろいろ大変な一年でしたけど、まずは一息つくことにしましょう。みなさまも暖かい一杯のお茶と共にどうぞ温もりの冬をお過ごしください。（ラビ）

オトラもんだより
No.4396 16-172 12/2



茉莉花

多難の丙の申年もあとわずかとなりました。お元気でお過ごしでしょうか。花鳥村通信の第1号目となります。どうぞよろしくお願いします。

冬土用に入る頃稲刈りをしました。はざ掛けしてしばらく天日に干して、脱穀、籾摺りと続きます。例年ならばこれで完了するところですが、今年はもち米田んぼの隣に少し刈り残しているところがあります。マイサ（正木高志）が上海でいただいた種もみの稲です。一ヶ月以上も遅く植えたのでまだ苗が小さい頃に梅雨にあったのですが、さすがは古代種です。実く生き延びました。今は育ちも穂もうるち米の2倍はず大き く育っているのです。香りも絶品です。この稲を見るとあのメロディが流れてきます。

今年の初めにマイサが1 0月14日から16日に東アジアの祭りをやろうと思うよと言いました。どんな風になるのかなあと少しキョトンとして聞いていたのですが、韓国や中国からの依頼でマイサの講演が開かれるようになり、その内容に共感された方たちが「ふくしま支庫」を訪れてくるようになりました。

7月の下旬、上海から親子連れ三家族が「ふくしま支庫」を訪ねてきました。4月に上海で開催された「第3回地球市民会議」でのマイサの話に感銘を受けた方が友達を誘ってきたのです。

二週間ほどの滞在だったのですが、早朝から午前中は農園のお手伝いをし、午後はマイサの講義が少しあり、あとは自分たちで自炊しながら過ごすリトリートのような暮らしをされていました。

農園のお手伝いは茶畑の下草刈りをお願いしました。夏の間の大雑々作業で、敷の間にしゃが少ふんで鎌で刈っていきます。草刈りは福岡の輸に入れてもら う時であり、土に返した笹や草がやがて茶葉の甘みを育んでいくのです。

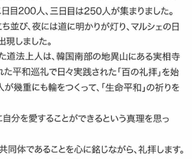
早朝8時前にはニーハオ、ニーハオと挨拶する明るい声がしてきました。作業服に着替え、敷の間に並び、鎌を片っていきます。茶畑に中国語の会話が響き渡ります。お茶がもともと中国から伝来してきたものだということもあるのかもしれませんが、茶畑全体がとても喜んでいるように活き活きとしてきたようでした。やっぱり、茶葉の記憶に残っているんでしょうね。

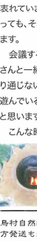
3日目だったか、ラビが草を刈りながら「ガヤトリマントラ」のメロディを口ずさんでいました。そしたら上海の若いお母さんたちがお返しに中国の代表的な歌を歌ってくれました。「茉莉花（モーリーファ）」という曲です。恋の歌のようでもあり子守唄にもなりそうな優しく美しのある郷愁的なメロディです。茶畑の中で「茉莉花」の歌声が響き渡ると、子供達がお母さんへと駆けつけてきて、鼻たちのさえずりも聴こえてきました。実たしてこは本当に同調なんだろうか、2 0 1 6年なんだろうか、と思ってしまうほどの音響かしい景色でした。ああ、こうしてアンナプルナ農園は「東アジアの花鳥村」になっていくんだなあと感じた瞬間でした。上海の稲を見るたびに流れてくるのはこのメロディです。

中国のジャスミン茶はこの「茉莉花」の茶葉であの白い花の香りが添えられています。中国では香片茶（シャンピンチャー）とも言い、これが琉球に渡りさんぴん茶になったそうです。
「茉莉花」の歌詞を知りたいなあと思って調べていたら、ある詩に記事に出くわしました。沖縄の有名な曲「安里屋ユンタ」は琉球時代にあった「安里屋節」という曲に当時の清王朝で大ヒットしていた「茉莉花」のメロディを加味してできたのだそうです。時に「安里屋ユンタ」は非暴力不服従の平和的行動として取われることがありますが、「茉莉花」の歌も民衆の解放を謳う革命ソングとなっていたそうです。どちらも東アジアのつながりのテ ーマソングにいかもちしれません。

過日「東アジア地球市民会議&花鳥村祭」は予想を超えて人が集まり無事終了しました。新しい時代の始まりを感じました。「生命平和」はこれから東アジアに広がり、どんな花が咲いてくるのか楽しみになります。

お茶の名称はこれから「花鳥村の自然緑茶」と「花鳥村のほうじ茶」となります。どうぞよろしくお願いします。（オト）





お米に小豆、里芋にさつまいも、夏野菜のおわりと秋野菜のはしり、干柿もつくらなければ……とあれもこれも収穫に追われる季節になりました。みなさまお元気でしたか？熊本では地震がありましたが、あっちでもこっちでも世界中が文明の収穫に追われているようですね。

秋のなかばに花鳥村で「東アジア地球市民会議&花鳥村祭」が開かれました。夫は数人の仲間達と約3ヶ月間、ふくしま支庫の廃屋を改装し、修復し、水道を引いたり、駐車場を作ったり、準備していました。こんな山奥で、どんな集会になるのか、ドキドキワクワクしていました。
直前に阿蘇山が噴火してドタキャンもありましたが、韓国から、中国から、全国から予測をはるかに超えて、前夜に100人、初日150人、二日目200人、三日目は250人が集まりました。

ドームハウスが完成し、テントやティピも立ち並び、夜には道に明かりが灯り、マルシェの日にはお店もいっぱい並んで、にぎやかな村が出現しました。

一日目は祈りの日。韓国から来ていただいた道法上人は、韓国南部の地異山にある実相寺のご住職であり、2004年から5年間続けられた平和巡礼で日々実践された「百の礼拝」を始められたお方です。Templeのホールに100人が幾重にも輪をつくって、「生命平和」の祈りを互いに捧げました。たたえば
ーー隣人を自分のように愛するとき、ほんとうに自分を愛することができるという真理を思って、礼拝します。
ーわが国が、隣の国に頼って生きてゆく国家共同体であることを心に銘じながら、礼拝します。
など、東アジアのみんなで輪になってお祈りできたことに感慨無量でした。

二日目の会議は、ワールドカフェやテーマごとの分科会など、参加者全員が発言しやすい工夫がなされて、とても活発な話合いが展開したようで、みんなの高揚した表情に、その歓びが表れていました。たとえば「大学に行って何になるのでしょうか？」というありふれたテーマであっても、それを中国や韓国の人たちと話し合うことは自体が新鮮な経験であり、答えをふくんでいます。

会議するおとなたちをよそに、日本と韓国の小さな子供たちが大きな通訳のキム・ヨンスクさんと一緒に笑い転げながら、楽しそうに鬼ごっこをしていました。よく見ていると言葉はあまり通じないけど、共通するサインやキーワードで、互いに名前を呼び合いながら、必至で走り、遊んでいるのです。小さい頃からこんなふうに一緒に遊ぶことが、平和のためには大切なのだと思います。

こんな時代だからこそ静かにお茶をいただきます。ありがとうございました。　正木ちこ

花鳥村自然緑茶&花鳥村ほうじ茶がでちゃ１００ｇ９００円。２０個以上は別途になります。地方発送も承ります。お気軽にお問い合わせください。合茶減動太目黄金茶と寒で詩雛です。：）

そして誰もいなくなった
祭のあとの、ふくしま文庫。
寒い北風が吹き、秋色が深まり、
カエデの葉が染まりはじめました。

誰もいなくなったけど元のままではありません。
「花鳥村」が誕生した。
蕗になったら筍を掘おう。
夏には子供キャンプがスタートするだろう。

「ある文明が滅びると、崩壊の原因となった問題を解決する新しい文明が誕生して、救世主の役割をはたす」と歴史学者のA・トインビーが語っています。
原発と戦争のない世界を創るのは、子供です。中国、韓国、日本の子供たちが集まり、福島の子供たちを保養に招き、５０人のキャンプが行われる日を夢見ています。いわば救世主のための自然学校ですね。（^^）

来週は台湾へ。帰った頃に紅葉がピークを迎えることだろう。
それから間もなく、カエデは一斉に落葉して、裸の樹になる。（正木高志）

新しい冊子「生命平和」を出版しました。
empty skyというタイトルで昨年出した文章の
最新ヴァージョン、60ページあまりの小冊子ですが、
長い文章を削りに削った、短いけれど深みの詩集です。
できるだけ普及したいので定価を100円にしました。
一冊送料込みで250円。50冊以上は送料無料です。